



ホームページアドレス <http://www1.com.ne.jp/~mizumaki>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第 328 号

一体私達は何を待っているのでしょうか。

マヘル神父

教皇フランシスコがこの質問を私達に問いかけています。パパ様の手紙“福音の喜び”に洗礼で私達が宣教の弟子になると教えてくださっています。教皇様はこの手紙でいつもの通り簡単に親しく話をしてくださいます。今から手紙の全文を読んで一部ですが、紹介したいと思います。

一体、私達は何を待っているのでしょうか。

すべてのキリスト者への直接の呼びかけとなります。福音宣教にかかわることをためらわないでください。何故なら、救いをもたらす神の愛を経験している人ならば、それを告げに出向いていくための準備のための時間を、さほど必要としないからです。たくさんの講座を受けたり、長い期間指導を受ける必要はありません。イエスキリストにおいて神の愛に出会った限り、すべてのキリスト者は宣教者です。私達は「宣教する弟子」と言います。納得できなければ、最初の弟子たちに目を向けてください。

彼らはイエスのまなざしに出会った直後、喜んでそれを告げ知らせに行きます。

『私達はメシアに出会った』(ヨハネ1・41) サマリアの女はイエスとの会話の後すぐに宣教者となり、多くのサマリアの人々が『女の言葉によって』(ヨハネ4・39)イエスを信じたのです。パウロもイエス・キリストに出会った後に、「すぐに…『この人こそ神の子である。』と、イエスのことを述べ伝えた」(使徒言行録9・20)のでした。一体私たちは何を

待っているのでしょうか。

救いをもたらす主の愛についてはっきりと証するよう、私達、皆は呼ばれているのです。主は私達の不完全さを超えて近づいて下さり、み言葉と、ご自分の力と、生きる意味を与えて下さいます。イエスなしの人生は違ったものになることを、皆さんの心は知っています。あなたが見つけたもの、あなたを生かすもの、あなたに希望を与えているもの、これこそあなたが他者に伝えるべきものです。自分が不完全なものであることは口実にならないはず。それよりも使命を平凡なものにしたままにせず、広げ続けなければなりません。

私たちに課せられた一つの形があります。

それは身近な人にも知らない人にも、自分とかかわりを持った人に福音をもたらすということです。これは会話の中にいたり、誰かの家を訪ねた宣教者が用いるような、形式にとらわれない宣教です。弟子であれば、いつでも、イエスの愛を伝える心の準備があって、通りや、広場で、職場で、旅路で、どこでも自然と伝えるようになるのです。水巻教会共同体としてパパ様の指導を受けて行きましょう。

一体、私達は何を待っているのでしょうか。

正義と平和全国集会・・・2・3面
聖堂補修工事について・・・4面
9月号からしだねについて・・・5・6面
教会運営の有り方を問い直す・・・6・7面
お知らせ・教会学校のページ・・・8面

正義と平和全国集会 福岡大会

9月13日～15日、正義と平和全国大会が福岡市大名教会で開催され、全国から数名の司教様方をはじめ、合計数百人に及び参加者の中、感動を生む講話、対話も聞かれました。

カン・ウィル司教（済州島司教区） 基調講演「東アジアの平和と福音的展望」

「4月16日の韓国の大きな事件、セオウル号の沈没は、忘れられない事件となりました。467人のうち、297人が死亡、10名が行方不明。韓国では、多くの人が、4月16日を境に、世の中が変わったと思っています。これまで、当然のこととしていたことが、変わってしまいました。」日本人よりも明瞭な日本語で、このように講話が始まりました。以下、皆、深い内容なのですが、紙面の都合上、箇条書きにさせていただきます。

このセオウル号沈没の救助については政府、警察間の協力の破綻、船の不正改造、過積載については、政府と船の業界の癒着が深刻な影響をもたらした。遺族の一部は、この状況に抗議してハンスト。その場所が実に、教皇フランシスコが訪問する場所だった。結果、遺族は、教皇訪問の日が来ても、その場から移動せず、その近くを教皇のオープンカーがさしかかった。そのとき、予定外に、教皇は車を止めさせ、遺族の肩を抱き、なぐさめた。

国民の命を守るために国家がある。国家のために国民があるのではない。日本でも国家の概念は明治維新から創られた。それが、20世紀前半に2度の世界大戦につながった。この反省から世界人権宣言が出されたことは、歓迎すべきことだったが、歴史を振り返れば、例えばアメリカという国家が、その土地に住んでいた先住民を追いやり、人口も激減させたことを認識すべきである。

チェジュ島の入り口にあたる場所に、巨大軍港の建設が予定されている。カトリック信徒も一部は迷う中、当地の司教である私は、反対声明を出した。この真の理由は、第二次世界大戦後の韓国・チェジュ島の4・3事件と呼ばれる大悲劇を考えてのことである。（朝鮮半島の南北分断が始まりそうになった折り、南だけでも選挙による政権が立てられようとした。離島であるチェジュ島には、それを不満とする勢力があり、選挙をボイコット。占領米軍と新政府は、その首謀者、主として左派的批判勢力を弾圧。ところが、この勢力が山岳地域に逃げ延びると、そもそも山岳地域に住んでいた一般人も、「共産勢力の一味」とされ、「いつまでに海岸付近に降り、投降しないと、弾圧する。」とのピラが撒かれ、期限を過ぎて、海岸付近に来なかった数万人が、山間部の農村の部落ごとに、老人から赤ん坊に至るまで、虐殺された。）これから、50年以上を経た2003年、ノ・ムヒョン政権によって、やっと謝罪の言葉が述べられた。

一方、韓国朝鮮人の民衆は、常に被害者側にあったとは限らない。ベトナム戦争で、米軍の主導の攻撃において、敢えて参戦、敢えてベトナムの某地域において、凄惨な虐殺を行った事実がある。近年韓国の青年たちが平和を学ぶ船に乗り、現地でその事実を目の当たりに

し、反省を深めている。市民が草の根レベルで国境を超え、民族を超え連帯しあうことこそ大切なこと、と締めくくられました。

「佐賀県・高校生平和大使からの呼び掛け」

高校生平和大使（中学生1万人署名活動）を任じられてきた佐賀県の高校生3名が、当大会に来訪。活動についてさわやかな態度、明瞭な言葉で、紹介されました。

古川慧月さん：16代平和大使。韓国に行き、日本で被曝したおばあさんたちと交流。被曝体験についても、温かみを持って話してくれた。彼女は3回も癌が発症。日本人なら被爆者援護法が摘要できるが、外国人には摘要されず、裁判を起こしてきた。

原田あつきさん：17代平和大使。岸田外務大臣と共にスイスで研修。特に国連欧州本部を見学。砥部焼き(愛媛県特産)などを用いた、平和を示す置物などがあることに驚いた。

吉田滯さん：15代平和大使。常時の活動としては中学生が、約1～2ヶ月に1回、署名を街頭で集める。先日、小学生の前で平和について話した。69年前の姿を伝えるが、肝心なことは、友達と仲良くしよう、などと簡単に語りかけること。小学生たちは、キラキラした瞳をして、私の話を聞いてくれる。私達が被爆者に会える最後の年代かもしれないことを噛み締め、活動している。

分科会

すべての参加者の積極的な討論を含む、次の各分科会が開催されました。日韓問題、福島の実況・福島支援、キリスト者と働くこと、障害者問題、女性と子どもの問題、世界の貧困問題、死刑廃止問題、憲法問題、対日外国人問題、その他の分科会、下関、筑豊、玄海は、現地に赴いての会合でした。すべての紹介は無理ですが、分科会数個について、紹介します。

「日韓問題」では、2名の外部講師による講話、および、ドキュメンタリー映画「韓国民主化運動史」鑑賞があった。日本への強制労働動員、今日のヘイトスピーチ問題に始まり、大統領ごとの政策の変化、教科書の制定においては日本人が想像する民族主義が濃いものばかりでなく、より広い視野を持つという動きがあることも知らされた。韓国国内の民主化と、日本韓国の緊密化が望まれます。一方、朝鮮学校の教員による講話、協力依頼も行われ、北朝鮮の欠点のみを見るのではなく、一般人への支援の大切さも分かった。

分科会の中で、最も心を打たれたものの1つ「世界の貧困問題」があります。菊池司教が講話、世界の富の8割を、世界の人口の2割が独占しているという話から始まり、そもそも「発展途上国」という言い方について考察。多くの途上国訪問の経験を踏まえ、貧困の連鎖の実態を示され、その連鎖の断ち切り方も教示。最後に教皇フランシスコの発言を主として、「世界すべての国が今の先進国の様になり得るとは限らない、あらためて真の幸福とは何かを考えるべきである」とされた。

水巻教会聖堂補修工事について（完了報告）

水巻教会 マヘル・ウィリアム 部会長 濱口

前略、信者皆様様のご協力と聖霊のお恵みを得て、事故も無く、聖堂補修工事の完了をご報告致します。工事期間中、皆様には、ご不便をお掛けした事申し訳ありません。また、一部の方からは、多額の寄付も頂き、感謝の言葉もありません。工事に関するお手伝い、アドバイスなど様々なご協力にも併せて、感謝申し上げます。

1. 工事までの経緯

2013/09頃…建堂から20年を経て、外壁の傷み具合がかなり進んでいると指摘
2013/11…本聖堂設計事務所の紹介で専門業者(Kei)に有償で補修内容調査を依頼
2013/11～2014/12…補修内容調査結果をもとに、各社に見積もりを依頼
2014/02～03…工事を地区集会、小教区委員会に回り、工事承認を得た
2014/05./11…信徒総会にて、工事を承認
2014./07/24…教区への工事の承認を打診、了解を得た。

2. 工事の経過

2014/08/04…工事着工（台風の影響で実際は、8/12から工事開始）

2014/09/20…工事完了

当初の予定との違い（屋根を全塗装に変更）

工事を始めて判明したが、屋根は事前調査の結果よりも傷んでいた。部材は最高のものを使用するので、メーカー責任で全塗装に変更させてほしい、との打診を受け、全塗装に変更した。

これまでの聖堂との違い（屋根を改善）

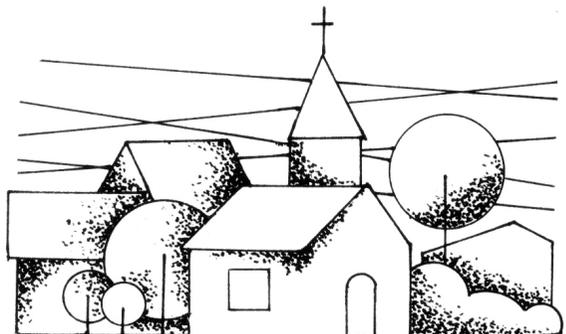
ビスを鉄からステンレスに変更（数百本）。錆びる部材は屋根に無いはずである。

※工事の詳細は、別冊にまとめ、後日、閲覧できるようにする。

※支払いは全額、営繕積み立てから行う。

3. 工事後の扱い

10年保障。渡航に不都合が発生したときは、メーカーに補修を依頼できる。ただし、最初に不具合が出るのはスロープではないか？と思っているとの事。（防水対策もしたが、壁面に雨水がしみこんで、塗装が膨れる事象が発生すると思われる。）



からしだね9月号に掲載された「8月3日開催の小教区委員会議事録」について、問題点が地区委員有志から指摘がなされました。この疑問については、次回の小教区委員会で提起され討論されるものですが、この内容は水巻教会にとって重大な問題であり、10月の委員会以前に共同体の皆さんに報告すべきと広報委員会では判断し掲載することにしました。

9月号の「からしだね」に掲載された委員会報告について

1、記載されていない重要な発言があり、発言内容の一部には疑義があります。

(1)教会の塗装工事の部会について一般信徒からの発言：「部会に誰が選ばれるのか教えて貰えなかった。」「委員長が人選を秘密にしたいと言った意味は全く理解できない。」「どうして人選をオープンにしなかったか、と質問したが返答がない。」これらが記載されていない。
(2)地区委員は「(塗装が)10年持つということに異議あり」と発言したが、副委員長は「10年の保証付きである」と言った。しかし、見積もり書には、メーカー及び自社との5年間の保証付きとある。

(3)財源に駐車場献金が当てられる事への多くの批判があったが、これについて記載がない。

2、議事録の文章には次の4項目の疑義があります：

(1)「**総会で承認を得た**」との報告があったが、塗装工事自体とその財源については総会資料に掲載がない。総会審議においては財源について批判があり「新信徒会長を部会長に推すべきでない」という発言が出たところで審議が突然終了し、承認を得る時間は持たれなかった。

(2)「**営繕の仕事の経験から、田中、久保園氏が選出された。メンバーを信用し、任せて、承認するというを考えて欲しい**」と神父様が語られたとされているが、実際に言われたことは「営繕係が業者に調査をして貰った。」および「見積もりを出した4~5の業者は、高値であっても、専門的な会社である。」。

(3)「**去年から、必要書類は開示するので見積もりを出して下さい、とお願いしたのに、なぜ今になって(地区役員等が)見積もりを出すのか**」→この様な発言が8月の委員会で出たのか、あるいは「去年から」の委員会で出された事があるのか疑問である。

(4)「**(工事再検討を望む方は)4名挙手があった**」→挙手は、委員のみと委員長から限定された。実際には、批判的発言をした人数が、挙手した人数を大幅に上回っていた。母数には欠席・早退者もあり、議事録の表現では執行部案賛成が圧倒的多数の様に思われてしまう。

3、合同地区集会による「同意書の提出」について

8月17日に遠賀地区有志の呼び掛けで約4地区の信徒が集まり、以下の文書を決め、小教区委員長に提出することになりました。

(当日の参加者27名、以降の賛同者21名、合計48名。提出は8月24日)

※聖堂塗装工事に関して、次のことを求めます。

(1)契約に対して、水巻教会信徒の同意は得られたのか、回答頂きたい。また、支出は、信

徒総会で示された予算費目のうちどこから、支払いするのか回答頂きたい。

- (2) 契約までの経過を示す報告書を提示して頂きたい。
- (3) 水巻教会信徒の同意なしに、支払いをしてはいけない。
- (4) 至急、臨時総会を開催すること。



教会運営の有り方を問い直す 高須・青葉地区 吉岡 英美

昨年の5月の信徒総会で、20年経過した教会建物の屋根と外壁塗装工事が取り上げられ、この8月初旬から9月中旬で工事が終わりました。建物の外観はそれなりに綺麗になりましたが、外壁塗装工事の進め方には水巻教会の信徒にとって、これまで経験した事のない大きな禍根を残す結果を招いたことは、信徒の一人として大変残念であったと思います。

水巻教会の多くの信徒が関わった、教会建設に至るまでの歴史を振り返って下さい。1973年ベルトラン神父の時代に教会建設積立が信徒総会で決定され、ラバルタ神父の時代(水巻教会の一員になる)から「教会建設積立金」に協力し、ベリオン神父の時代に本格的に教会建設に向けた建設準備委員会で検討され、2年掛けて中間報告が提出され、1年後最終報告が提出されました。そして「建設委員会」が発足、それから2年掛けて水巻教会が建設されたのです。この5年の歳月の中で、信徒総会・臨時信徒総会等を10数回開き民主的に多くの信徒の意見を聞き、意見集約を図ってきました。さらに、建設委員会に専門部会(総務部会、建物部会、財務部会)を設置、部会毎に審議を重ね、その結果を議事録にまとめ、「ガラス張り」の約束のもとに、大きな犠牲を払って参加した信徒が共同体としての役割を、「からしだね」によって教会建設の経過を把握、理解しながら共同体として役割を担ってきた水巻教会の歴史があったのです。

ところが、今回の「教会建物の屋根と外壁塗装工事」の事案について、教会建設の経験が全く生かされないまま、事務局の独断で教会運営が行われたことは真に遺憾であります。

昨年5月の信徒総会で、教会建物の屋根・外壁塗装工事について改修工事の必要性が取り上げられてから一年の間、工事について信徒の中に専門的な知識や経験のある信徒の推薦を除外してまで工事を進めてきた意図に疑問を持たざるを得ません。また、多くの信徒が関わっているにも関わらず議論と検討がほとんどされなく、一方的な報告で済まされ、意見を発言してもただの意見として取り上げられるだけで済まされれば、何事も進展することはないでしょう。なぜ、こんなに急いで工事を始める必要があるのでしょうか。

今回のような大きな工事については、信徒の声を反映して専門部会を設け、そこで屋根と外壁の塗装の仕様の検討、資金の調達方法についての議論と検討を重ねながら、検討結果を「からしだね」に掲載することで信徒の理解を得ながら合意形成を進め、最終的には信徒総会で可否を問うべきです。今回はこのような経過を踏まず、事務局が強引に工事を進めた結

果、何が残されましたか。これまでの経過を振り返ってみますと、信徒が主役となって役割を果たしてきたのではなく、事務局中心の教会運営は司祭中心に陥りやすく専制主義的に物事が決められ、信徒がそれに反論できなく従順にならざるを得なかった後遺症は、負の遺産となって水巻教会に汚点を残しました。

教会運営の問題は、「からしだね」の外壁塗装工事に関する経過報告で明確に示されています。昨年の6月から10月迄「からしだね」には工事に関する経過報告のお知らせはありません。11月3日の小教区委員会で、初めて営繕委員会より業者に教会建物の屋根・外壁等の診断を依頼したとの報告があり、12月と今年の2月に「からしだね」の報告を合わせて通算3回だけでした。3月小教区委員会では、初めて工事に関する部会の立ち上げと資金の問題が取り上げられましたが十分な検討はされませんでした。4月小教区委員会では専門部会を設け、その中で協議を進めていくことを確認したにも関わらず信徒の意向は全く反映されませんでした。

4月27日臨時小教区委員会、5月11日信徒総会では議論を充分尽くす時間を設けず、総会議事録も広報委員の議事録は採用されず、事務局の権威とご都合主義的な議事録が、一ヶ月遅れの7月の「からしだね」に掲載されました。6月小教区委員会で地区からの意見についても真面に取り組む姿勢も見せず、事務局の都合の良い解釈で事を進められ、7月27日ミサ後の部会長名で工事の実施計画を一方向的に発表する有り様でした。

8月3日小教区委員会では、工事について議論が紛糾しました。この日の議論を踏まえて地区有志による合同地区集会の開催を呼びかけた結果、8月17日の合同地区集会を開催して、小教区委員長に「同意書」を提出することを決議しました。

今回の教会建物の屋根・外壁塗装工事に関して8月24日4項目の回答を要求したのです。しかし、4週間経過しても小教区委員長(事務局)から何ら回答がありません。

ここで「からしだね」の原点に立ち返ってみましょう。二年前の「からしだね」301号に寄稿されたベリオン神父の「からしだね」の誕生に立ち会って、次のような言葉があります。『小教区において、様々な立場や考え方があることを互いに認め合い、共に理解を深め尊重しあう精神に生き、分かち合うことによってお互いの交流をするための広報誌「からしだね」は欠かせない手段であり、「ガラス張り」の約束のもと、全ての信者は、教会の動きを把握し、理解できるように』との言葉をよく噛み締めてみましょう。

水巻教会の広報誌である「からしだね」は、信徒の信頼に應えるべき客観性と事実を伝えるべき正確で信用性の高い報道が求められる内容が掲載されるものだと思います。

今回のような重大な出来事の経験を反面教師として、全ての世代の人達と司祭が参加する信徒中心の独自色のあるイエス・キリストの共同体として水巻教会の教会運営を目指しているようではありませんか。

10月のおしらせ

★北九州信徒教レクリエーション大会★

日 時：10月13日(月) 体育の日
9時30分～15時
場 所：新田原グランド

昨年度より、多くの方が気軽に参加できるように、内容が大きく変更になりました。

今年度も、同じような内容になると思いますので、どうぞたくさんの方の参加をお待ちしています。

特に子ども達の参加が増えてほしいと思います。たくさん子ども達を含む、多くの信徒の皆様の参加をお待ちしています。

★大人の日曜学校★

10月に予定されていますが、詳しいことは未定です。日曜日のお知らせをご覧ください。

★10月はロザリオの月★

10月はロザリオの月です。ミサの前、午前9時からロザリオを一連、唱えます。皆さんの参加をお願いします。

★教会聖堂のワックス掛け★

日程は未定ですが、10月に行います。日程が決まり次第、ミサ中にお知らせします。なお、当日は、作業しやすい服装でおいでください。

人-ひと

【帰天】安らかに！

8月25日

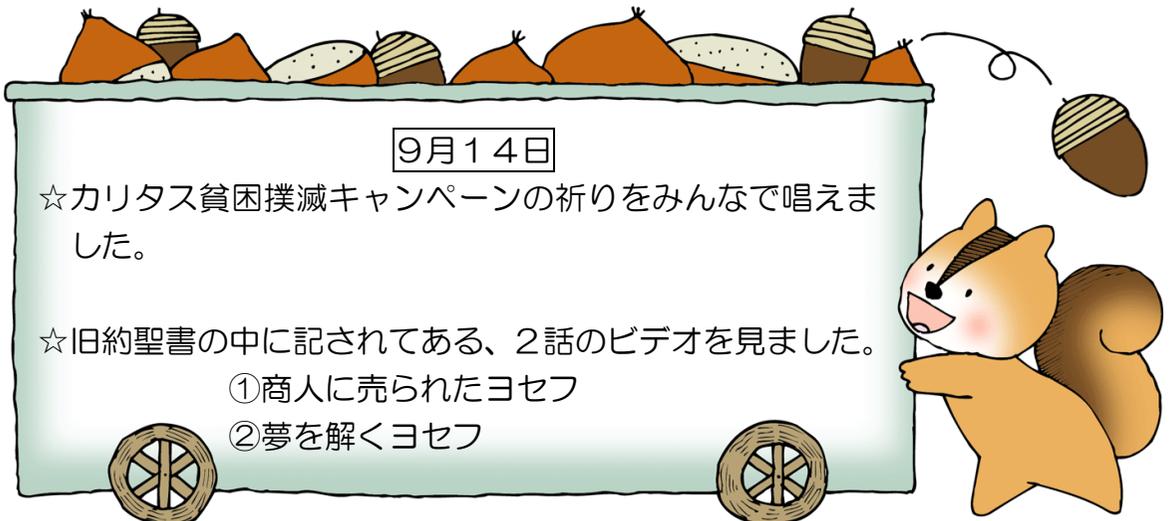
◇馬込 彌八さん(折尾地区)

8月28日

◇古川 千代子さん(芦屋地区)



教会学校のページ



9月14日

☆カリタス貧困撲滅キャンペーンの祈りをみんなで唱えました。

☆旧約聖書の中に記されてある、2話のビデオを見ました。

- ①商人に売られたヨセフ
- ②夢を解くヨセフ